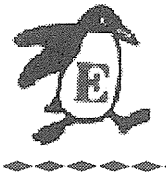
＜嘉穂・鞍手③＞

「在宅医療推進事業を担当して」

10 月から、嘉穂・鞍手に異動になり、「在宅医療推進事業」の担当になりました。10 月の統合動乱期に、どのような事業か理解しないまま、始まりましたので、はじめは不安いっぱいでした。まずは、現場を知ることからはじめようと、拠点病院の緩和ケア委員会や院内ラウンドへ参加したり、往診や訪問看護へ同伴させていただいたりしました。また、訪問看護ステーションの連絡会やケアマネ連絡会へ参加すると、それぞれの現状を把握でき、地域の様子がよくわかりました。

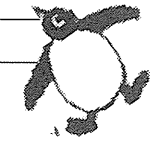
この事業では「連携」がキーワードで、それぞれの関係機関での取り組みと、他機関とどうつないでいくかを話し合うことが多かったです。顔の見える関係をまず、保健所が作り、各機関へ広げていくことが重要と思いました。嘉穂・鞍手では３名が他事業担当と兼任で、当事業を担当しました。現状や今後の方針を話し合う機会も多く、話し合いを重ねるうちに、どう地域をつなげていくかの流れが見えていったと思います。私はついていくので精一杯でしたが、保健所の役割や「みる・つなぐ・うごかす」醍醐味を感じることのできる事業と思います。

（担当 T）



南筑後保健福祉環境事務所

「事業を担当して一言」



モデル事業全般を通し多くの学びがありましたが、特に事例を通して関わった２人の訪問看護ステーションの所長からの学びは大きく、少し感想を述べたいと思います。

一つめの事例は、５０歳代の単身、末期がん患者のM氏で関わったＡ所長。M氏は、「在宅での生活が３日になっても、もう一度自立した生活がしたい」という強い希望がありました。入院先の主治医から退院の許可は得たものの、病棟看護師さんは、病状的に夜間の負担を考えると無理ではないかと心配され、相談者である知人のＫ氏も、最後なのだから本人の希望をかなえてあげたい気持ちと一人の生活が本当にできるのという不安が混じっておられました。私自身もこの状態でどうしたら退院できるのだろうかと考えながら、訪問看護ステーションＡ所長に相談したところ、医療面、生活面で必要と思われることを、丁寧に、具体的に何度もアドバイスいただいきました。医療面は私達がバックアップしますからと言っていただいた言葉がとても力強く、ステーションからの帰り道、Ｋ氏も安心されましたが、私も力強い応援を得た気持ちで、必要な調整に入ることが出来ました。

そして、転居後３週間でなくなられましたが、支援中も本人の気持ちを第一に尊重し、必要な支援をされたようでした。

もう一つの事例は、８０歳代のＴ氏で関わったＢ所長。末期がんであることを告知しないまま、家族と本人の希望での在宅療養を希望。Ｔ氏は敷地内の別棟で一人生活をされていたため、診断後は家族が「何かあったら」と24時間付き添っておられました。当所からステーションへ相談した後、すぐに訪問に入り、今後の予測と訪問看護で対応できることをご家族に説明しながら、ご家族の負担にも思いを寄せた対応をされていました。

相談から30日後に死去されましたが、「これでよかったのだろうか」「私がそばをはなれていたから・・」と振り返る家族に、お正月に大勢の親族に見守られてなくなったことは、とても幸せな最後であったことを話していただいたと聞いています。

Ｂ所長さんは、支援の後こういう支援でよかったのだろうかと自身を振り返るとお話しをされていました。どちらの所長さんからも訪問看護師としてのプロ意識と真摯な姿勢を感じ、利用者の方に信頼されている理由がわかる気がしました。同時に、在宅療養においては訪問看護がいかに支えとなるかを実感いたしました。

そして、事業当初、在宅を希望する人はいないという意見もありましたが、事業の展開過程で、予想以上に「親を、配偶者を在宅で看取りました。」という声を聞くことが何度かありました。おそらく、支援する側が、在宅は無理と思って関われば無理なのだろうし、可能な方法を探っていく姿勢があれば、よりよい連携体制へつなげる一歩となるのではないかと思います。　　（担当Ｔ、Ｋ、Ｎ）

京築保健福祉環境事務所

在宅医療推進事業を担当して、２年目が終わろうとしています。
担当が決まった時は、がん（疾患）のことも分からないし、何をするのか、と不安がいっぱいでストレスに感じていました。
その不安は、事業の経過と共に少しづつ薄れていきました。

地域のネットワーク作りは、関係者へのヒアリングを通して（出かけていく前に、少しの勇気が必要でしたが皆優しく、熱心でした。）、一番不安だった相談業務については、実際に患者さんやご家族の支援を行っていく中で、解消され多くのことを学びました。

特に、相談業務は、難病患者さんからがん患者さん、乳児への在宅支援と、あっという間に広がって行き、その中で支援センター、地域が互いに成長していったように思います。（関係機関のパワーアップには驚いています！！）

医療処置も多く、重度の障害を抱えた患者さんが在宅で生活するってどういうことだろう、と不安に感じていたのは住民だけでなく、私自身もそうでした。

支援の中で、一番印象に残ったことは、病気はあっても、生活者としての患者家族であるということです。

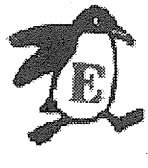
多くのことを学ばせていただいた患者さんやご家族の声を紹介します。

「家にいれて良かった。最後まで家にいれるよね」とがん患者さん。「家で最後まで看るなんて、最初は不安だったけど、今は皆がいるから安心しています。毎日、自分のことも出来ず、病院に通うだけで疲れ果てていたと思うと、家にいれてよかった。」亡くなった後は「家で看取ることができてよかった。緩和ケア病棟に入院させていたら、きっとずっと後悔していた。多くの人が、支援センターに相談できるようになったらいいのに」と家族。「他の子供（兄弟）と一緒、この子も早くつれて帰って、家で育てたい」、「家に帰ってホッとしている。介護じゃなく、育児をしますと。」とNICUから退院した家族。

様々な医療処置を抱えての在宅は不安がいっぱいだと思いますが、皆さんの笑顔で思いました。「これが在宅なんだ、こんな当たり前のことが出来る地域にするための支援なんだと。」

保健監はじめ所内、外の多くの人に支えられての２年間でした。ありがとうございました。

（担当M）



業績一覧

- Naruse T, Taguchi A, Kuwahara Y, Nagata S, Watai I, Murashima S. Relationship between perceived time pressure during visits and burnout among home visiting nurses in Japan. Japan Journal of Nursing Sciences. 9(2), 185-195, 2012.
- Naruse T, Taguchi A, Kuwahara Y, Nagata S, and Murashima S. Effects of non-nursing assistance on home visit nurses' time spent in Japan: one group repeated pretest-posttest trial. The Home Health Care Management & Practice. 25(1), 18-22, 2013.
- Naruse T, Sakai M, Watai I, Taguchi A, Kuwahara Y, Nagata S, Murashima S. Individual and organizational factors related to work engagement among home visiting nurses in Japan. Japan Journal of Nursing Sciences. DOI: 10.1111/jjns.12003, 2013).
- Kuwahara Y, Nagata S, Taguchi A, Naruse T, Kawaguchi H, Murashima S. Measuring the efficiencies of visiting nurse service agencies using data envelopment analysis. Health Care Management Science. (in press).
- 成瀬昂, 田口敦子, 永田智子, 桑原雄樹, 村嶋幸代. 居宅介護支援専門員によって同一日に訪問サービスを頻回に必要と判断される要介護者の発現率と対象像の明確化. 日本公衆衛生学会誌. (in press).
- 成瀬昂, 田口敦子,桑原雄樹, 永田智子, 村嶋幸代. 行政による訪問看護ステーションの整備・拡充の取り組み. 訪問看護と介護. 15(9). 702-707. 2010.
- 高井和子, 千代妙子, 山本真理子, 南千佳子, 石原仁, 九里美和子, 田口敦子, 成瀬昂, 桑原雄樹, 村嶋幸代. 24 時間 365 日の安心を提供する 夜間・早朝訪問看護の充実に向けて. 訪問看護と介護. 16(3), 225-229. 2011.

【研究代表者】

村嶋　幸代　　大分県立看護科学大学

【分担研究者】

山田　雅子　　聖路加看護大学
福田　敬　　国立保健医療科学院・研究情報支援研究センター
田上　豊　　三菱総合研究所
要石　恵利子　滋賀県健康福祉部
永田　智子　　東京大学大学院医学系研究科
田口　敦子　　東北大学大学院医学系研究科
成瀬　昂　　東京大学大学院医学系研究科

【ワーキンググループ】

千代　妙子　　滋賀県済生会訪問看護ステーション
高井　和子　　滋賀県済生会訪問看護ステーション
南　千佳子　　滋賀県済生会訪問看護ステーション　サテライト守山
石原　仁　　滋賀県済生会訪問看護ステーション　サテライト草津
山本　真理子　栗東市訪問看護ステーション
新村　真喜子　草津市訪問看護ステーション
田中　陽子　　訪問看護ステーションなかさと
　　（兼　訪問看護ステーションなかさとサテライト）
高田　貞子　　守山市社会福祉協議会訪問看護事業所
横江　規子　　訪問看護ステーションなないろ
東　　展子　　野洲病院　訪問看護ステーション
関口　朋美　　草津総合病院　訪問看護ステーション
谷口　知恵己　ケアタウン南草津訪問看護ステーション
多久島　尚美　第二びわこ訪問看護ステーションちょこれーと
今江　佐代子　医療法人小西醫院　小西醫院訪問看護ステーション
渡利　容子　　医療法人小西醫院　小西醫院訪問看護ステーション
金子　智美　　訪問看護ステーションさくら
小川　薫子　　草津市地域包括支援センター
杉田　ひとみ　草津市地域包括支援センター
中園　和貴　　草津市健康福祉部
三浦　久美子　栗東市地域包括支援センター
青木　直美　　栗東市地域包括支援センター

大橋　あかね　栗東市健康福祉部健康推進課
今堀　初美　　野洲市市民健康福祉部健康推進課
藤田　加代子　野洲市地域包括支援センター
椙本　まどか　滋賀県南部健康福祉事務所保健福祉課
原田　小夜　　滋賀県立精神保健福祉センター
安井　明子　　済生会滋賀県病院退院調整継続看護室
木村　真奈美　守山市民病院　地域医療連携室
荒木　友子　　滋賀県立成人病センター　地域医療サービス室
九里　美和子　特別養護老人ホーム淡海荘
堀井　とよみ　NPO 法人　みなくち
成瀬　昂　　東京大学大学院医学系研究科
桑原　雄樹　　東京大学大学院医学系研究科
阪井　万裕　　東京大学大学院医学系研究科
柳瀬　裕貴　　東京大学大学院医学系研究科

福岡県保健医療介護部医療指導課
福岡県筑紫保健福祉環境事務所　健康増進課
福岡県粕屋保健福祉事務所　健康増進課
福岡県糸島保健福祉事務所　健康増進課
福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所　健康増進課
福岡県嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所　健康増進課
福岡県田川保健福祉事務所　健康増進課
福岡県北筑後保健福祉環境事務所　健康増進課
福岡県南筑後保健福祉環境事務所　健康増進課
福岡県京築保健福祉環境事務所　健康増進課
尾形　由起子　　福岡県立大学看護部ヘルスプロモーション看護学系
阿部　久美子　　社団法人宗像医師会　在宅支援室　訪問看護ステーション
荒巻　初子　　福岡県看護協会訪問看護ステーション「くるめ」
片山　泰代　　医療法人矢津内科消化器科クリニック　ひと息の村

（以上、順不同）

厚生労働科学研究費補助金　長寿科学総合研究事業
複数の訪問看護ステーションによる地域単位の24時間訪問介護・看護の
効果的・効率的な実施方法の開発研究
平成 22-24 年度　総合研究報告書
平成 25 年 3 月

企画・編集
大分県立看護科学大学
学長　村嶋 幸代
〒870-1012　大分県大分市大字廻栖野 2944-9
TEL　097 (586) 4300
FAX　097 (586) 4370